# いのちと地域を守る　防災・減災のページ

河北新報社は7日、宮城県丸森町と連携し、町総合防災訓練で避難者名簿を掲載した「訓練号外」を作成、配布した。東日本大震災では、多くの被災者が学校、公共施設などに避難。通信、交通が遮断された被災地で、家族や知り合いの安否の手掛かりは最も必要とされた情報の一つだった。大規模災害が起きた時に避難者名簿を発信する意義と、実施する際の課題を考える。

# 避難者名簿 情報どう共有

## ■震災後、安否不明に焦燥感　当時の様子

震災では、発生からしばらくの間、多くの被災者が家族や友人の安否情報を得られず、不安な時間を過ごした。被災者の証言、取材を基に当時を振り返る。

### 携帯ダウン、確認に4日

宮城・南三陸

「ずっと心配で、生きた心地がしなかった」。宮城県南三陸町の保育士三浦美香さん(46)が、息子たちの無事を確認したのは、震災の4日後だった。

あの日、勤務先の「南三陸ホテル観洋」の託児所で激震に襲われた。高台の施設は無事だったが、街は津波にのまれた。十数㌔離れた歌津地区にいるはずの中学生と高校生の2人の息子の身を案じた。固定電話は不通で、携帯電話はつながりにくい状態だった。

一睡もしないで迎えた翌朝、携帯電話も使えなくなった。安否を気遣いながら、幼児や避難者のサポートを続けた。

新たな避難者を見かけては声をかけたが、息子たちの手掛かりは得られなかった。涙が止まらなくなったり、同僚とけんかしたりした。「精神的に参っていたと思う」と振り返る。

3月15日、がれきの中を歩き歌津に向かった。途中の避難所にホテル従業員の名簿を届け、無事を伝えた。4時間余りかけて歌津中に到着し、自分が行方不明者になっていたことを知った。避難していた息子を見つけ、抱き寄せて泣いた。

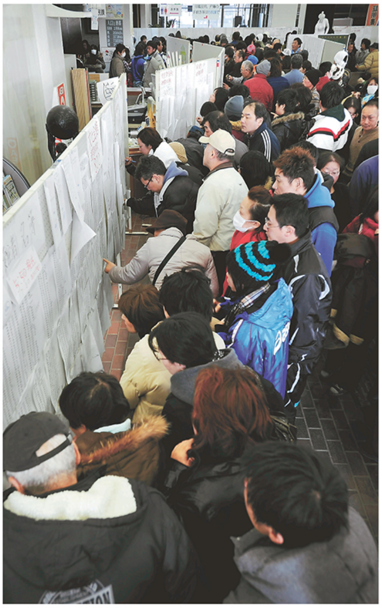
### 記者写し書き、頼りに

震災発生当時、宮城県南三陸町の支局に赴任していた渡辺龍記者（現写真部）は揺れが収まると、志津川高に避難した。

一夜明け、約300人の避難者名簿をノートに書き留め、取材で持ち歩いた。行く先々で、家族らの安否情報を求める人たちが手書きの名簿に目を凝らした。

入谷小で、避難所を回って親類を捜している人に会った。ノートの中に、名前を見つけた時の表情が忘れられない。「離れ離れになった家族たちの情報が求められていると何度も感じた」と振り返る。

河北新報社には震災後、安否や所在の問い合わせが相次いで寄せられた。孤立状態の被災現場で家族、親類への伝言を託され、携帯電話が通話可能なエリアに戻った時に伝令役を務めた記者も多い。



避難者名簿が張り出された名取市役所のロビー。家族や友人の安否を確認するため人垣ができた＝2011年3月13日

### 血眼、ボードに人垣

名取

震災後、避難所となった施設には、家族、友人の姿や安否情報を求めてたくさんの人が訪れた。

3月13日の名取市役所の1階ホール。避難者名簿を張ったボードの前に人垣ができた。人々は無言で、沈黙が覆う。家族や友人の名前を捜し、名簿をなぞる指が何本もボードの上で交錯した。

「○○は無事です」「△△さん、どこにいますか」。別のボードは無事を伝えたり、消息を尋ねたりするメモで埋め尽くされていた。一枚ずつ食い入るように見つめる女性の目は真っ赤だった。

## 提供可否 ○×で確認　本社案

今回の震災で新聞は、ライフラインが断絶した中で情報を届けたほか、避難所内で回し読みしたり、内容を読み返したりできる活字の利点を発揮した。河北新報社は今後、将来の大規模災害を想定し、自治体などと連携しながら、避難者情報の発信を検討する。

### ひな型を自治体に配布

丸森町との取り組みや、専門家の意見を踏まえて避難者名簿のひな型を作成した。「○」「×」で氏名提供の可否を尋ねる項目を設けた。

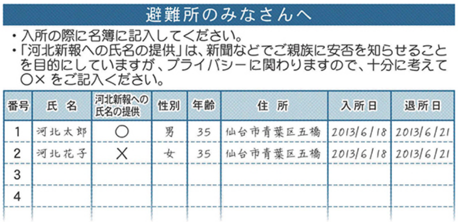
宮城県山元町の8月の避難訓練で使い、避難所名簿号外の作成に取り組む。他の自治体にもひな型や号外の活用を呼び掛け、災害発生時の安否情報発信について認識の共有を図る。

今後は、紙面に氏名を掲載する際、五十音順に並べ替える。並び順に規則性をもたせて探しやすくする一方で、家族構成や、女性の1人暮らしなどの生活実態を判別しにくくする。ホームページ（HP）での氏名の掲載は見送る。

安否情報を速やかに確認できる効果について、災害復興に詳しい室崎益輝ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長は「仲間がいてこそ困難に立ち向かえる。心配の種を解消し、家族や地域が復興の目標を共有する上で、避難者情報の提供は大いに役立つ」と話す。

名簿掲載に関しては「被災直後の被災者、支援者の切実なニーズに応える取り組みだ。将来的には地域の避難所運営組織が名簿を管理すべきで、地元メディアと行政は名簿作成と発信を手伝う形が良い」と助言する。

希望する自治体などに、避難者名簿のひな形データを提供する。連絡先は「いのちと地域を守る」取材班022（211）1114。



避難所のみなさんへ

- 入所の際に名簿に記入してください。
- 「河北新報への氏名の提供」は、新聞などでご親族に安否を知らせることを目的にしていますが、プライバシーに関わりますので、十分に考えて○× をご記入ください。

| 番号 | 氏名 | 河北新報への氏名の提供 | 性別 | 年齢 | 住所 | 入所日 | 退所日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 河北太郎 | ○ | 男 | 35 | 仙台市青葉区五橋 | 2013/6/18 | 2013/6/21 |
| 2 | 河北花子 | × | 女 | 35 | 仙台市青葉区五橋 | 2013/6/18 | 2013/6/21 |
| 3 |  |  |  |  |  |  |  |
| 4 |  |  |  |  |  |  |  |

## 個人情報 細心の注意必要　課題

### 「家族構成分からぬ工夫を」

避難者名簿を新聞に掲載する場合、個人情報への配慮が課題になる。個人情報保護法は「個人情報の保護」と同時に「有効活用」をうたう。専門家は活用の側面から、安否情報の発信の意義を認めながらも、細心の注意を求める。

避難所には、ドメスティックバイオレンス（DV）などの被害者が身を寄せる可能性がある。日弁連情報問題対策委員会副委員長の野呂圭弁護士（仙台弁護士会）は「安否確認という利用目的を示した上で、同意を得る必要がある」と話す。避難所名簿に氏名掲載やプライバシーについての説明と、可否を確認する項目の設定を求める。

掲載された氏名から生活環境や留守宅が推測される心配もある。仙台弁護士会災害復興支援特別委員会委員長の山谷澄雄弁護士は「掲載時、家族構成が分からないような工夫がほしい」と言う。

個人情報の扱いに関する住民の意識について、山谷弁護士は「普段は慎重でも、災害時には必要とするのではないか」との見方を示す一方、混乱を避けるため「普段から住民に理解を呼び掛けることが大事だ」と語る。

大きな震災被害を受けた岩手、宮城、福島の3県は一時期、避難者名簿を各県のホームページ（HP）で公開した。

情報検索に詳しい新潟国際情報大の高木義和教授（情報論）の調査によると、名簿内容は避難所によって異なった。氏名だけの名簿のほか、性別、年齢、住所など複数の項目を組み合わせた名簿もあった。一部は電話番号が記されていた。

名簿は現在、HPから削除されているが、当時はパソコンでデータをコピーできた。高木教授は「個人情報の扱いに配慮が足りなかった。削除の前にコピーしていれば、データを保存できるし、インターネット上にも残る」と指摘する。

「ネットでは被災者の家族ら安否情報を必要とする人に、必要な内容だけを提供すべきだ」と話し、氏名を入力して避難所などを表示する検索システムを提案する。

## 防災訓練で「号外」作成　@宮城・丸森

### 氏名掲載 同意者のみ

### 用紙を撮影、車使い搬送

丸森町総合防災訓練で7日に行った「訓練号外」の作成は、通信が途絶えたという想定で、避難者名簿を掲載する紙面製作の流れを確認した。

避難者情報を掲載するに当たり①大規模災害の発生により、通信や交通が混乱した際に掲載する②掲載内容は氏名のみで避難所ごとに分ける③判読できない字は「〓」に置き換える—などの基本ルールを決めた。

避難開始後、主会場の丸森中に集まった住民が用紙に氏名を記入した。町と事前に打ち合わせをし、用紙には氏名掲載を望まない住民向けに「×」を書く欄を設けた。

氏名が記された名簿11枚を撮影。重複や撮影漏れの有無を確認した後、車で仙台市青葉区の河北新報社本社に運んだ。号外用の写真は、衛星携帯電話を使ってデータ送信した。

自家発電機のある本社で、名簿の写真を見ながら、氏名をパソコンに入力した。撮影時点で名簿に記入した85人のうち、3人が掲載に同意しなかった。

×印の有無、誤字脱字をチェックし、紙面の割り付けをした。500部印刷して車で丸森町に運び、そのうち100部を丸森中周辺の住民らに配った。

被災時を想定し、現場で氏名の確認はしなかった。文字が判読できず、2人の名前の一部を記号に置き換えた。より正確な情報の提供を目指し、入力時の注意喚起とチェック作業の徹底を図る。

氏名掲載の体裁について、町からは「人数が多い場合は、名前が見つけにくいかもしれない」との意見が出た。

氏名掲載の可否を確認する項目を設けた避難者名簿に記入する住民＝7日、宮城県丸森町

### 抵抗あるがメリット理解 ■ 災害時でも何となく不安

**【氏名掲載に同意した人】**

「震災当日は相馬市に行った息子が心配だった。名前の掲載には抵抗があるが、家族や親戚が安心できるメリットはある」＝無職の男性(75)

「あの日は仙台にいた妻と連絡が取れなくて心配した。長時間連絡が取れない場合、新聞掲載するのはいいことだと思う」＝自治会役員の男性(69)

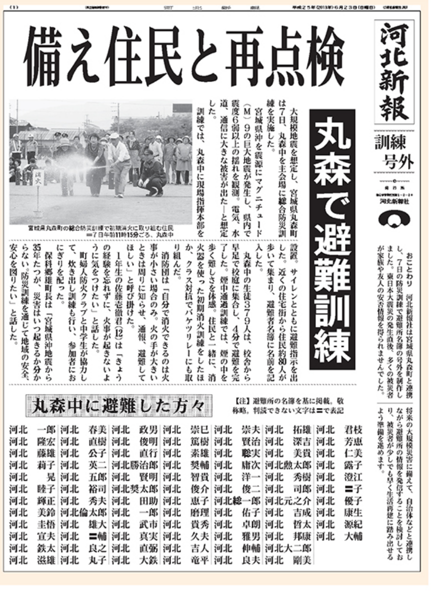
「新聞で安否確認する取り組みは、なるほど必要だと感じた。名前が載ること自体は嫌だが、あの日のような災害が起きたら協力したい」＝主婦(34)

「最初は×と書いた。その後、やっぱりいいことだなと思って○にした。住所などは載せてほしくないけど、名前だけなら」＝会社役員の女性(60)

**【同意しなかった人】**

「電話番号などの個人情報を出すと、すぐセールスの電話がかかってくる。災害時でも名前を出すと何かあるんじゃないかと感じる」＝無職の男性(69)

「拒否したのは何となく。『え、名前出るの』とびっくりした。安否確認のためと聞き、本番ではいいかなとも思う」＝主婦(69)



**河北新報**

訓練号外

河北新報社

# 備え住民と再点検

## 丸森で避難訓練

大規模地震を想定し、宮城県丸森町は7日、丸森中を主会場に総合防災訓練を実施した。

宮城県沖を震源にマグニチュード（M）9の巨大地震が発生し、県内で震度6弱以上の揺れを観測。電気、水道、通信に大きな被害が出た—と想定した。

訓練では、丸森中に現場指揮本部を設置。サイレンとともに避難指示を出した。近くの住宅街から住民約80人が歩いて集まり、避難者名簿に名前を記入した。

丸森中の生徒379人は、校舎から早足で校庭に集合し、4分で避難を完了した。煙中通過訓練では、煙の中を歩く難しさを体感。住民と一緒に、消火器を使った初期消火訓練をしたほか、クラス対抗でバケツリレーにも取り組んだ。

消防団は「自分で消火できるのは火事が小さい場合のみ。火の手が大きいときは周りに知らせ、通報、避難してほしい」と呼び掛けた。

1年生の佐藤壱徹君(12)は「きょうの経験を忘れずに、火事が起きないように気をつけたい」と話した。

町婦人防火クラブと中学生が協力して、炊き出し訓練も行い、参加者におにぎりを配った。

保科郷雄町長は「宮城県沖地震から35年たつが、災害はいつ起きるか分からない。防災訓練を通じて地域の安全、安心を図りたい」と話した。

宮城県丸森町の総合防災訓練で初期消火に取り組む住民＝7日午前11時15分ごろ、丸森中

おことわり　河北新報社は宮城県丸森町と連携し、7日の防災訓練で避難所名簿の号外を制作しました。東日本大震災の発生直後、多くの被災者が家族や友人の安否情報を得られませんでした。

将来の大規模災害に備えて、自治体などと連携しながら避難所の情報を発信することを検討しており、被災者が少しでも早く生活再建に踏み出せるよう準備を進めます。

### 丸森中に避難した方々

【注】避難所の名簿を基に掲載。敬称略。判読できない文字は〓で表記

河北　君枝
河北　芳恵
河北　仁美
河北　露子
河北　澄江
河北　〓子
河北　優子
河北　康生
河北　源紀
河北　大輔

河北　拓雄
河北　深吉
河北　美貴
河北勲太郎
河北　秀樹
河北　司郎
河北元之介
河北　吉成
河北　哲太
河北　邦康
河北大二郎
河北　剛美

河北　崇夫
河北　賢治
河北　聡実
河北　庸次
河北　洋一
河北　俊二
河北総一郎
河北　佑子
河北　卓朗
河北　雅男
河北　伸輔
河北　良夫

河北　崇巳
河北　篤樹
河北　素雄
河北　奨輔
河北　智貴
河北　俊介
河北　恵子
河北　磨理
河北　貴秀
河北　久夫
河北　吉人
河北　竜平

河北　政男
河北　俊明
河北　直行
河北勝治郎
河北　賢明
河北奨太郎
河北　田助
河北　一郎
河北　武市
河北　真実
河北　直弼
河北　大鉄

河北　春美
河北　直樹
河北　公子
河北　英二
河北　五郎
河北　裕司
河北　秀夫
河北倫太郎
河北　雄大
河北　〓輔
河北　良之
河北　丸子

河北　一郎
河北　隆宏
河北　藤雄
河北　莉子
河北　　晃
河北　睦子
河北　輝正
河北　美鈴
河北　圭悟
河北　宣夫
河北　鉄太
河北　滋雄

【注】掲載している避難者名簿は、プライバシー保護の観点から架空の氏名で再編集しました。丸森町で配布した号外と内容が異なります。